

平成30年度第1回学校評議員会の実施報告書

学校名

岐阜県立可茂特別支援学校 校長 田口 正芳
所在地 美濃加茂市牧野 2007-1 電話 0574-28-3150

1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校 学校評議員会

2 会議の構成

板津 幹彦	NPO 法人プラス・ワン理事
大脇 房夫	レストラン・リリアーナ経営
生田 靖子	可児市発達支援センターくれよん所長
水谷 敬	元公立学校校長
早川 泰則	下米田地区自治会会長

学 校

田口 正芳	校長
小林八智子	P T A会長
大前 幸弘	事務部長
石原 和寿	教頭
広井 隆司	小学部主事
社本 教恵	中学部主事
野々村 健	高等部主事
吉村 智典	高等部主事
後藤 明美	教務主任

3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成30年5月23日(水) 9:30~11:20
可茂特別支援学校 会議室

5 会議の概要

- (1) 校長挨拶
- (2) 本校の教育実践事例発表
- (3) 授業参観
- (4) 高等部作業製品の価格設定について(協議)
 - ・価格設定については、すべての製品について適正との判断を受け、提案のとおりとなった。
- (5) 学校評議員の意見、質問

意見1：児童生徒が多く、活動の場所が狭いと感じた。

「自己有用感」という言葉を教えていただいた。学校でも社会でも人から

必要とされることは大切なこと。今後の色々な取り組みの中で自己有用感を高められるよう頑張ってください。

意見2：清掃サービス班の洗車の取り組みは良い。

下米田地区は高齢者世帯が多く、自宅の敷地も広く、草の処理に苦慮している家庭も多い。草取りを作業班の仕事に取り入れてはどうか。需要が多くなれば、地域にある可茂特別支援学校の意義が深まっていく。

意見3：児童生徒が生き生きと授業に取り組んでいる姿を見てうれしい。職員の努力の賜物である。

作業製品の価格をもっと高くしてもよいのではないか。大変丁寧に作られていて値段以上の製品である。

意見4：自らは幼児期の子どもたちを療育する機関に所属しており、幼児期以上の児童生徒の様子を見ることができて参考になった。一人一人に寄り添いながら状況に合わせて支援されていた。児童生徒が「できた」、「認められた」と感じられる授業であった。

高等部の作業班はどのように決めているか。

回答 基本的には3年間同じ作業班で技術・スキルを上げるよう取り組んでいる。入学時に希望調査をして、作業班を決めている。しかし、すべての生徒が希望通りではないため、若干名2年次に変更する生徒もいる。

意見5：下米田地区の自治会長として、貢献できることは何かを考えていきたい。人を育てることは大変だと感じた。

質問1：外国籍の児童生徒の割合は？

回答 全体の1割が外国籍の児童生徒である。外国語適応指導員としてポルトガル語、タガログ語に対応しているが、英語の需要が多い。しかし、外国語適応指導員の英語枠はなく、英語科の職員が対応している。

PTA 会長：PTA活動として夏休みに「夏祭り」を計画しているが、本年度は体育館が天井工事のため使用できない。しかし、児童生徒が楽しめるよう活動を縮小せずに実施できるように計画していきたい。PTA活動は、一部の参加者になりがちだが、たくさんの方に参加していただけるように計画していきたい。

6 会議のまとめ

各委員からは学習活動全般において概ね高い評価をいただいた。昨年度の新聞掲載の紹介では行事や日々の教育活動の情報を提供し、理解を得ることができたが今後はさらに情報を発信し、次回の学校評議員会で多くの活動を報告できるように努めたい。高等部卒業後、地域で豊かに生活していくために、学校と地域の連携をさらに強化しなければならない。